

シーサー

市内には字田頭、字名嘉地、字渡嘉敷、字平良、字高嶺、字饒波、字根差部、字真玉橋、字保栄茂で村を守る石獅子が見られます。

シーサーを設置する目的はその村に災厄をもたらす丘や岩に向けて設置し、ヒーゲーシ（火伏）フーチゲーシ（流行病返し）ヤナカジケーシ（悪風返し）を払うために設置しています。

シーサーに関する由来として字真玉橋では、「むかし、ガーナー森は魔物であり、村を襲おうといつも狙っていた。村の人々は手に手に棒や刀を持って集まり撃退しようとしたが失敗し、ガーナー森はせせら笑うばかりであった。これを見ていた神様が石を2個、ガーナー森のお尻に投げ付けて押さえ、永久に動けないようにした」という伝説があり、真玉橋では神様への感謝の意味と魔風を押し返すためにガーナー森に向けて設置したといわれます。

馬場（ウマイー）

馬場とは競馬場のことをいい、方言でウマイー、マーウィといえます。一般に良く知られているのは今帰仁村の「仲原馬場」があります。市内においては現在、字豊見城、字保栄茂、字翁長で見られます。以前は字根差部、字嘉敷、字饒波にもありましたが、道路整備や住宅建設などの諸開発によって当時の面影は今ではみられません。

字保栄茂、字翁長の馬場は区民の憩いの場となり、毎年旧暦8月15日には「豊年祭」が行なわれ、字保栄茂の6年に一度の巻棒（マチボー）も行なわれます。

この様に地域の憩いの場であり、先人たちから大切にされてきた馬場を公園等として今後は整備し後世の為にも大切にしたいものです。